

# 「お客様のために、働く仲間と共に40年」



株式会社みちのくジャパン  
(北上市)  
代表取締役社長  
**小原 寛**

## 商売への芽生え

私は1947（昭和22）年、和賀郡江釣子村（現在の北上市）で生まれ、東京の短大進学と横浜の自動車販売会社への就職の4年ほどを除き、岩手・北上を本拠地として地域の多くの方々のご支援をいただきながら商売に邁進し今日に至っております。

振り返ると、小学校入学前に家の隣の豆腐屋さんを手伝い、「かわいい豆腐屋さん」として行商の豆腐が売れ、お金をやり取りしたときの面白さや、小学校時代に魚売りの行商を始めた父を手伝い、自分で注文を取り、父の言い値より高く売れたときの嬉しさを今も覚えており、これが私の商売人生の原点になったと思います。地元の中学、高校入学後も家業の手伝いを続け、商売に関心を持った私は、東京の経理・会計を専門とする短大に進学、卒業後は横浜の自動車販売会社に就職しました。家業を手伝うなかで、高校3年に免許を取得しトラックで配達

を始めると、そのスピード感に魅せられ、就職も自然と自動車関連となったのです。

就職から2年ほどで父から帰郷の命が下り、北上に戻ってからは家業の手伝いの傍ら、青果物の行商、飲料等の自動販売機のベンダー、オートスナックなど、寝る間も惜しんで立て続けに新規の商売に取り組みましたが、それには理由がありました。

「クルマ」に魅せられた私は、自動車販売会社で働きながら、自動車メーカー主催のモータースポーツのチームに参加し、サーキットレース出場を目指しており、帰郷してからも諦めきれず、地元のレース好きを集めて「チームみちのく」を結成し、レース活動を継続するために、その資金を作る必要があったのです。

## ハピーの誕生

ちょうど30歳になった頃、オートスナックの繁盛を見た地元の魚市場の方から、スーパー

マーケットを立ち上げ社長として経営を任せられる話が持ちあがりました。大きなビジネスチャンスとばかり、スーパー経営は素人でしたが市場関係者からの出資も受け、1978（昭和53）年8月、「ニューファミリーショップ ハッピー」を開店したものの、すぐに壁にぶち当たりました。

客入りは悪くありませんでしたが、多くの年上の社員や出資者に素人経営を見透かされ、社内が思うように回らず、社長自ら店内中を駆けずり回った挙げ句、自分の給料も出ない始末。借金返済の見通しも立たず、出資者に辞意を伝え最後に、父の知り合いで開店にあたり助言を求めた湯田町（現在の西和賀町）の「スーパーオセン」を経営する小笠原弘明社長を訪ねました。小笠原社長からは、開店にあたってはひと言、「勉強しなさい」とだけ言われていましたが、今度も「お客様は来ているんだろ。それはお客様の役に立っているからだよ」のひと言。しか

し、これで目が覚めました。

これまで、「利益を上げ、レースに出たい」と自分のことばかり考えていたのが、お客様の役に立つことをすれば利益は後でついてくる……。それからは「より良いものを、より安く、お客様へ」をモットーに店舗運営を変更、社員の私を見る目も変わり、オープンから1年半で市内トップクラスにランクするほどに成長しました。

### みちのくジャパンの発足

ところが、ハピーの経営が軌道に乗ったと思った途端、西に1キロの場所に10倍の売場面積を持つ「ジャスコ江釣子店」（現在のイオン江釣子店）の出店計画が持ち上がりました。

生き残りをかけた対策に追われ、東京のセミナーにも何度か顔を出しましたが、すぐに役立つようなものが見当たりません。たまたま隣り合わせた方に声をかけると、持ち帰りの弁当屋を開いているとのこと。誘われて東新橋の店に立ち寄ると、のり弁当、シヤケ弁当が260円。注文するとその場で作り始め、出来立ての温かい弁当を食べると、何と美味しいことか。

これが1980（昭和55）年の春、「ほっかほっか亭」とその社長田渕道行氏との出会いでした。「お客様はきつと喜ぶ」と確信した私は、粘り強く田渕氏を口説き、フランチャイズ（FC）の岩手・青森本部を立ち上げました。そして、ハピーとは別組織で、気心の知れたレース仲間を集め立ち上げたのが「株式会社みちのくジャパン」（MJ）です。

### 集大成「アメリカンワールド」の開場

その後、「ほっかほっか亭」は順調に加盟店を増やす一方で、居酒屋や回転ずしなどのフードサービス、ビデオレンタルやカラオケをはじめとしたカルチャーサービスを中心に事業の多角化を進めてきました。

これらは全て、私が最初に「ほっかほっか亭」と出会った時と同じ「お客様が必ず喜ぶ」と感じたものばかりです。なかには、うまく進まなかったものもありますが、私自身の見立ての失敗と誤りを認めると、撤退は即断でした。

そして「お客様が喜び満足する」集大成として開場したのが「食と遊の合衆国・アメリカン



アメリカンワールドのセンターに立つ赤い観覧車

ワールド」です。ランドマークの赤い観覧車を中央に据え、周囲に700台分の駐車場とイベント広場を配置、これを囲むようにフードサービス、カルチャーサービスの店舗を並べ1999（平成11）年4月に本格オープンしました。

### 共に生き、共に働き、共に歩む

アメリカンワールド開場後も、秋田ではホテルの経営を手掛けるなど、多角化を進めてきました。「バックギアのないクルマだ」とも言われましたが、環境変化に対応し、価値あるものをお客様に提供し喜んでもらうため、常に正直に商売をする姿勢を貫いてきました。

そして、忘れてならないのは、私の考えに共鳴し共に歩んできた仲間たちです。MJ立ち上げ時のレース仲間やその後のFC加盟店の方々を始め、多くの仲間たちがいてこそこの真のMJの姿なのです。

会社の成長につれ社員も600名を超える大所帯となりましたが、この仲間意識は変わりません。お客様に正しく向き合い、共に歩む「清気質」のMJマンの基本姿勢と、レース仲間時代から続く仲間みんなで楽しみ、ビック・エンジョイを謳歌する人生。

株式会社ハピー創立から40年を迎えた今、後に続く者たちと共にさらなる夢に向かって世界への挑戦を続けていきます。また、共に歩む社員の次なるステージとなる独立を積極支援していきます。そして、私の人生にロマンを持ち続けていきます。